

## 可見元代石刻拓影目録稿・六続（従後至元至至正10年）

可見元代石刻拓影目録稿・六続（従後至元至至正10年）

森田 憲司\*

Kenji MORITA

「可見元代石刻拓影目録稿」の6回目として、元朝後半期、順帝の初期、元統・至元年間と至正10年までの分を掲載させていただく。『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』では、元朝3巻のうち、2冊目第49巻の終わりから50巻のはじめにあたる。順帝期は、『元史』編纂上問題の多い時期であり、「同時代」史料である石刻の有効性が期待できるのであるが、この目録がこの間の石刻史料集の刊行の増加、質のアップに対応できているとは言いかねる面が増してきたことも事実で、個人での作業でカバーするには限界を感じている。

さて、この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録であり、その作成の趣旨については、第1回目（本誌17号掲載）の冒頭に書いた「この目録について」を参照していただきたい。

これまでにも書いたように、この作業をスタートして以後、新たに入手可能となったり、目にするところできるようになった石刻関係書は少なくない。「継続性の維持」を重視して採用を手控えるのが本筋ではあるが、地域単位の刊行物が増え、所収の資料の中に他の文献には見えないものが少なくないことを考えれば、もはや目録の趣旨からは外れてしまうので、あえて増入することとしている。

それとともに、前々回の目録から編集の方式に若干の修正をおこなった。その内容を語句の補正を加えて再掲する。また、「凡例」のうち変更・増補のある箇条の文末に、★を付した。

対象書目の増加のほかに、改めた点は次のとおり。

1つは、「題名・題刻」の問題。

曲阜の孔廟にある「参謁刻石」のようなものもあるが、多くは野外、とくに「摩崖」の形で刻されていることが少なくない。最近ではこの種のものについての資料集の出版が増えてきているので、この目録でも収録対象として本腰を入れることとした。刻者の名前を中心とした短いものがほとんどで、史料として見れば、「使える」余地は少ないものではあるが、石刻であることに違いない。また、題刻の資料集の多くが写真であり、「拓影」でないことも問題と言えなくはないが、明瞭に読み取れるものであれば、採録することとする。むしろ、年代の確定、すなわち干支のみのものの比定や後刻再刻・偽刻の検討が課題として残り、さらには自身でタイトルを持た

ないものが大部分ゆえに、命名の方式に考えるべきものがあると思う。現時点では人名と必要な場合に小地名を付しているが、これでいいのかは、今後も考えていきたい。

なお、写真に関しては、明瞭に読み取れる写真を採録の対象とすることは、題刻以外でも同じである。ただし、あまりに不鮮明なものや、『三晋石刻大全』のように部分写真のみで、全体が読める写真が掲載されていないもの、巨碑で個々の文字までは読み取れない写真（や拓影）を掲載する文献などは、この目録の対象とはしていない。今回の例で言えば同書の洪洞県巻は多くの元代石刻を含むが、部分写真・部分拓影のみのものも多く、それらは趣旨に反するので、割愛した。結果として同一書に掲載されていないながら、この表では採用不採用が生じている。なお、『13, 14世紀東アジア史料通信』では、新刊金石書について、全体拓影のないものや録文のみのものも紹介しているので、新刊についてはそちらをご参照いただければありがたい。

2つ目には、これまでも繰り返し述べてきた石刻の命名の問題。これには検討すべき点が多い。筆者の考えを、旧稿にもとづいて再説する。

第一に、新たに命名するのか、原石にあるタイトルをそのまま取るのかが問題となる。これについては、一長一短があり、後者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけではその石刻の内容を把握しにくく、実務性に劣る。かつて「中国石刻菁華」（北京図書館HP）においては、目録での表示は簡潔な名称を命名し（拓片題名）、データとして原石にある表記を注記していた（根拠題名）。しかも、検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示されるという方式をとっていて、これについては、以前に本稿においても、合理的な方法ではないかと紹介した。しかし、やがて「其他題名」という項目に代わってしまい、新収の石刻については、それも入力されていない。煩瑣なるがゆえであろうか。ただし、このサイトに問題のあることは後述する。

一方、国内の公刊された拓本目録で一番整っているのは、『東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録』であるが、この場合、凡例の標題の項に「本文頭題もしくは碑額題を標出した」とあり、さらに「文頭原題」の項を設けている。これも穏当な方式ではある。ただし、標題として何を用いたのかについて、個々の項目で注記されていない。おそらくは、頭題（ここで言う「首題」）を標題に使用した場合はあらためて何も注記しないということなのだろうが、その旨の記述は見当たらない。

命名の方式については、今後とも検討していきたいと考えているが、もし新たに命名するとすれば、そのための原則を作る必要がある、さらに石刻の種別とその呼称ということがその前提となるのだが、これは石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとくにすべて異なっていると言っていいほどだから、それはそれで一朝一夕にできることではない。

聖旨・詔勅などの命令文に関しては、石刻自体には特段の名前を付されていないことが多く、せいぜい「聖旨」などの語が額に刻されている程度である。したがって、どのように命名するかについての原則を考える必要がある。蔡美彪氏の『八思巴字碑刻文物集釈』が公刊されたのを機会に、表記の原則の再検討をおこない、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに入れるようにしてみたのだが、まだすっきりとしない。なお、1つの石に複数の命令文が刻されている場合、資料集によっては、命令文ごとにそれぞれの日付の箇所に著録するものもあるが、この目録は石

刻拓影についての目録なので、可能な限り石単位にするようにした。ただし、典拠となった資料集の編集方式の関係で徹底できていないものもある。そのほか、漢字以外の文字が併刻されている場合もあるが、それらについては、なるべく注記で記述することとした。

ところで、今回収録した石刻は250弱となった。20年弱のものであるから、以前に比して拓影が現存する石刻の1年あたりの数が増加していることに変わりはない。理由の1つには、新しく対象に加えた文献に「新資料」が多く登載されていることがあるだろうが、経験的には元朝後半になるほど、残存する石刻は増えていくことも理由となろう。

今回までを通算して、登載資料は千件をこえた、元朝はあと20年をきったが、年代未詳のものや、今後新しく紹介されるものを考えれば、やっと6～7割をこえたというのが実感である。このペースでは、目録の完成にまだ数年はかかりそうだ。基本データは入力済みとはいっても、不十分な点が多いので再確認が必要な上に、新収文献を追補に手間がかかる。さらに、報刊所載の新出石刻については、『中国考古学年鑑』所載のものを中心に、雑誌などから資料収集をおこないつつあるが、まだ十分とはいえず、公開できるレベルにたどりつかない。また、新地誌の問題もある。いずれにせよ、これまでにも述べたように、全体の公開の方策について検討をおこなわなければならない段階にきていると感じている。しかし、作業がなかなかついていかない。過去に公表した部分についての補正、とくに新史料の追加を個人のデータとしてはおこなっているの、その部分だけでも公開を急ぎたいと考えている。

## 目録凡例

以下、目録の各項目ごとに凡例を掲げる。なお、石刻の配列順は、日まで比定できるもの、旬まで、月まで、年まで、の順とする。また、上述のように前回は補訂した箇条には★を付した。

### 名称

次の順序で採用する。 首題、額、掲載文献の命名、森田の命名。なお、掲載文献の命名に森田が異論を有する場合は、独自に命名した場合もある。

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額の少ない石刻の方が多く上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱などを（ ）に入れて付記する。

聖旨などの命令文については、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに加え、「元氏県開化寺虎児年聖旨碑」のように表記する。石刻の額や首題が、たんに「聖旨」などでなく、具体的な内容を有する場合はそれを用いる。★

摩崖については、人物名を主とし、必要に応じて小地名を付す。★

### 名称根拠

名称の欄に記した石刻の名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合は

その略称を用いた。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

## 日付

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする（追刻は除く）。墓誌、墓碑の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。したがって、所載文献と日付の合わないものもある。

命令文などを刻したもので、立石の日付が不明確な場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものを選び、各命令文の年次を注記に掲げる。また、命令文などに見られる十二支のみの表記については、判断の根拠を注記に記す。★

干支による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの（孟春、仲夏、望日、既望、重午、重陽など）は、数字に換算して表記する。ただし、問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

年によって動くもの（二十四節気など）は、それを表示する。

たんなる重刻（たとえば、元碑を明の萬暦年間に再刻したもの）については、その石刻の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。過去の朝代の石刻を元朝時代になって重刻したものについては、重刻された時期に配列し、その旨を注記する。

なお、今回特有の問題として、2つの「至元」がある。干支を参照するのは当然であるが、内容によって判断したものもある。

## 日付根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。「立石」、「建」、「記」、「附」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をなるべくそのまま用いることを原則とした。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、拓影掲載文献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

## 所在地

原則として拓影掲載文献の表記に従い、省名（北京・上海を含む）と2字表記の県名（北京などは区名）で掲載する。この場合、現在の市名もふくんで新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。一部、石刻の集中する史蹟の名を付している。これは森田の関心によることが多く、恣意的になっている。

## 所載

複数の文献に所載されている場合は、採録文献の対象範囲の広い文献から並べる。文献名については略号を使用し、文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。「東洋」については、最後とする。また、これまで掲載してきた「菁華」については、閲覧上の問題があり、今回から取り扱いを

変えることは後述する。

#### 注記

石刻の内容が数載にわたる場合、碑陰、碑側にも内容がある場合などは、ここに注記する。★  
いずれの面が碑陽、碑陰なのか判別しがたい事例もあるが、引用文献に従う。★  
「法帖」と注記したものは、内容よりも筆跡を鑑賞するために刻された石刻と見做されるものである。ただし、これは森田の主観的判断によるものである。★

#### その他

文字は常用漢字を用いることとする。

### 拓影出典目録

※使用した略称のあいいうえお順とし、数字の種類を注記した。今回収録すべき石刻のなかった文献については\*を、今回から採録した文献には※を、それぞれ付している。

- 安陽 安陽県古碑刻集萃 安陽県老幹部局他 2004 頁 \*
- 于右任 西北民族大学図書館于右任旧蔵金石拓片精選 上海古籍出版社 2008  
図版番号
- 蔚県 蔚県碑銘輯録 広西師範大学出版社 2009 頁
- 河間 河間金石遺録 河北教育出版社 2008 頁
- 華山 華山碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1995 図版番号 \*
- 漢中 漢中碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1996 図版頁 \*
- 翰墨 翰墨石影 河南省文史研究館蔵搨片精選 広陵書社 2003 冊・頁
- 咸陽碑刻 咸陽碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2003 図版番号 \*
- 咸陽碑石 咸陽碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1990 頁 \*
- 沂山 沂山石刻 山東友誼出版社 2009 頁
- 衢州 衢州墓志碑刻集録 浙江人民美術出版社 2006 頁
- 洪洞 洪洞金石録 山西古籍出版社 2008 頁
- 故宮墓誌 故宮博物院蔵歴代墓誌匯編 2010 紫禁城出版社 図版番号
- 戸県 戸県碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2005 図版頁
- 固原 固原歴代碑刻選編 寧夏人民 2010 石刻番号
- 湖湘 湖湘碑刻 湖南美術出版社 2009 冊・頁
- 2は活溪卷とある
- 濟寧墓誌 濟寧歴代墓誌銘 齊魯書社 2011 頁 \*
- 拓影は卷頭の写真のみ（元は1）
- 蔡11 八思巴字碑刻文物集積 中国社会科学出版社 2011 連番

拓本の所蔵者や典拠が記されているものについては、それを注記した

- 三晋孟県 三晋石刻大全陽泉市孟県卷 2010 頁  
 三晋堯都 三晋石刻大全臨汾市堯都区卷 三晋出版社 2011 頁 ※  
 三晋曲沃 三晋石刻大全臨汾市曲沃県卷 三晋出版社 2011 頁 ※  
 三晋洪洞 三晋石刻大全臨汾市洪洞県卷 三晋出版社 2009 頁  
 三晋侯馬 三晋石刻大全臨汾市侯馬市卷 三晋出版社 2011 頁 ※  
 三晋高平 三晋石刻大全晋城市高平市卷 三晋出版社 2010 頁 ※  
 三晋古交 三晋石刻大全太原市古交市卷 三晋出版社 2012 頁 ※  
 三晋左雲 三晋石刻大全大同市左雲県卷 三晋出版社 2012 頁 ※※  
 三晋沁水 三晋石刻大全晋城市沁水県卷 三晋出版社 2012 頁 ※  
 三晋浮山 三晋石刻大全臨汾市浮山県卷 三晋出版社 2012 頁 ※  
 三晋靈丘 三晋石刻大全大同市靈丘県卷 三晋出版社 2010 頁 ※  
 三晋黎城 三晋石刻大全長治市黎城県卷 三晋出版社 2012 頁 ※

山西 山西碑碣 山西人民出版社 1997 頁

山東臨朐 山東道教碑刻集 臨朐卷 齊魯書社 2011 頁 ※

司馬 司馬光瑩祠碑誌:図録与校釈 文物出版社 2004

輯繩 洛陽出土歴代墓誌輯繩 中国社会科学出版社 1991 頁

寿陽 寿陽碑碣 山西古籍出版社 2007 頁

三晋石刻大全の寿陽卷は、元については同内容

紹興 紹興図書館館藏地方碑拓選 西冷印社出版社 2007 頁

常熟 常熟碑刻集 上海辞書出版社 2007 ※

拓影は巻頭グラビアのみ(2件のみ)

新出 新中国出土墓誌 図版番号

「新出陝西2」のように巻名を表示した

図志 北京元代史蹟図志 北京燕山出版社 2009年 頁

西南 中国西南地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 1998 冊・頁

西北 中国西北地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 2000 冊・頁

西北民族 西北民族碑文 甘肅人民出版社 2001

録文は多いが(転載を含む)、拓影は巻頭グラビアのみ(頁なし、元は2件)

精粹 北京文物精粹大系・石刻卷 北京出版社 2004 図版番号

陝西 陝西碑石精華 三秦出版社 2006 図版番号

蘇州 蘇州博物館蔵歴代碑志 蘇州博物館編 文物出版社 2012 頁 ※※

泰山 泰山石刻大全 齊魯書社 1993 冊・頁 ※

涿州 涿州貞石録 北京燕山出版社 2005 頁 ※

涿仏 古涿州仏教刻石 河北教育出版社 2007 頁

澄城 澄城碑石 三秦出版社(陝西金石文献匯集) 2000 頁 ※

長治 長治金石萃編 山西春秋電子音像出版社 2006 頁 ※

- 重陽 重陽宮道教碑石 三秦出版社（陝西金石文獻匯集） 1998 図版頁 \*
- 天一 天一閣 明州碑林集録 上海古籍 2008  
拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし）
- 東洋 東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録 東洋文庫 2002 連番  
図版が掲載されているわけではないが、国内で閲覧可能を掲載のため収録する
- 道家 道家金石略 文物出版社 1988 頁 \*
- 南京 南京歴代碑刻集成 上海書画出版社 2011 図版番号 \*
- 寧夏 寧夏歴代碑刻集 寧夏人民 2007 頁 \*
- 寧波 寧波歴代碑碣墓誌彙編 上海古籍出版社 2012 \*
- 白話 元代白話碑集録 科学出版社 1955 図版番号 \*
- 柏郷 河北柏郷金石録 文物出版社 2006 頁 \*
- 碑帖拓本 中国古代碑帖拓本 香港中文大学文物館 2001
- 碑林 西安碑林全集 広東經濟出版社 1999 冊・頁
- 武夷 武夷山摩崖石刻 大衆出版社 2007 頁
- 富平 富平碑刻 三秦出版社（陝西金石文獻匯集） 2013 図版頁
- 法源 法源寺貞石図録 五洲伝播出版社 2006 頁 \*
- 邙洛 邙洛碑誌三百種 中華書局 2004 図版番号
- 北京文研 北京市文物研究所蔵墓誌拓片 北京燕山出版社 2003 頁 \*
- 北京摩崖 北京地区摩崖石刻 学苑出版社 2010 頁 \*
- 北京遼金元 北京遼金元拓片集 2012 頁 ※
- 北図 北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編 中州古籍出版社 1989-91 冊・頁  
ただし今回の対象となるのは第49冊の終わりと、50冊の前半
- 菩提 菩提達磨嵩山史蹟大観 三宝書院 1981再版 頁
- 満城 満城県歴代碑刻輯録 河北教育出版社 2011 ※
- 名碑 洛陽名碑集釈 朝華出版社 2003 頁
- 羅蔡 八思巴字与元代漢語（増訂版） 中国社会科学出版社 2004 図版番号  
掲載の拓影は北京大学図書館所蔵のもの（補を除く）
- 蘭州 蘭州碑林蔵甘肅古代石刻拓片菁華 2010 甘肅人民美術出版社 頁
- 麗水 麗水宋元墓誌集録 浙江古籍出版社 2013 頁 ※
- 歴代 中國歴代墓誌選編 天津古籍出版社 2000 頁
- 勞山 嶗山碑碣與刻石 青島出版社 1999 頁
- 隴西 隴西金石録 甘肅人民出版社 2011 頁 ※  
別稿に書くように、本書の写真には小さくかつ不鮮明なものも多いが、貴重な資料なので、録文を参照して造入した。
- 廬山 廬山歴代石刻 江西美術出版社 2010 頁
- 樓観 樓観台道教碑石 三秦出版社（陝西金石文獻匯集） 1998 図版頁

## 拓影画像データベース

人文 京都大学人文科学研究所蔵石刻拓本資料

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

京都大学人文科学研究所附属漢字情報センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでも話題としてきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

## 碑帖菁華について

前回まで、中国国家図書館蔵の所蔵拓本画像データベース「中国碑帖菁華」を対象として採用してきた。ここには、他の資料集には見えないものや、画像の質においてすぐれたものが少なくなかった。しかし、2012年秋ころから日本からの閲覧に不自由が生じはじめた。「いつでも、どこにいても、だれでも」資料が使えるべきだという筆者の理念や、「現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることのできる元朝石刻についての目録」という本稿の志向とは合わないので、今回からは採録対象外とする。

## 追記

最近多く出版される地域レベルでの石刻書のうち、最も注目すべきは『三晋石刻大全』であろう。現代のものにまで及ぶその収録範囲の広さ、これまで知られていなかったローカルな石刻を紹介していることなど、石刻研究の材料として魅力的なシリーズである。最近国内で目録できるようになり、今回から掲載の対象とした「臨汾市堯都区卷」を例にとると、元代の石刻13件が収録されているが、いずれもこれまで管見の及ばなかったものである。しかし、その一方で、このシリーズを本稿のテーマである「拓影」という視点から見ると、巻によって編集方針が一定せず、全景は写真にとどめ、拓影については部分しか掲載していない巻もままある。写真から文字を読むことができる石刻については掲載の対象としたが、文字を読み取ることのできない全景写真、部分拓影、録文の組み合わせとなっている石刻の場合には、採録しないこととした。したがって、全冊対象外となる巻や、同じ巻でありながら採録と不採録が混在することとなった。上で触れた摩崖題記の資料集のように、写真での掲載が中心のものもふくめて、今後同様の事例が増えると思われる。

また、最後になったが、『三晋石刻大全』の利用については、現在のところこのシリーズがもっとも揃っている、東京大学東洋文化研究所図書室、あるいは京都大学文学部図書室で閲覧させていただくことが多い。鉅冊で（カサが高いということは、今や図書館にとって最大の頭痛のタネだ）、定価的にもコストパフォーマンスを考えるとしり込みしたくなるこの本を、継続して購入してくださっていることに敬意を表したい。おかげさまで、ほかでは見ることのできない資料を、ここに掲載することができている。

キーワード：石刻、拓本

名称	名称根拠	年代	年代根拠	省	県	所載	注記
加封顔子父母妻諡議	首題	元統2年正月26日	日付	山東	曲阜 顔廟	人文165X	
加封顔子父母妻懿旨	人文	元統2年正月28日	文書	山東	曲阜 顔廟	人文164X、東洋2336	
大元放東平路鷹房打捕蒙古總管并曲阜泗水等県蓮魯花赤欽哥答公宗支碑	額	元統2年2月	日付	山東	曲阜	人文166X	日付の下欠
大元重修歷觀碑	首題	元統2年3月2日	立石	河南	沁陽	翰墨7・02	庚寅日
重修后土廟記	首題	元統2年3月20日	立石	山西	侯馬	三晋侯馬33	碑陰：題名
竜王祠題名碑	北図	元統2年4月	日付	北京	房山	北図49・153	
加封顔子父母制詞碑	首題	元統2年5月	文書	山東	曲阜 顔廟	人文167X(額とも)、北図49・154(上下逆)、羅蔡18	上八下漢
聖朝加封顔子克国復聖公致祭先師克国復聖公祝文	首題	元統2年6月8日	文書	山東	曲阜 顔廟	人文168X	人文題名：鄧昌世祝文
考烈將軍祠像弁正記	首題	元統2年6月	立	河南	商邱	北図49・155	
重修宝峰院碑記	首題	元統2年8月18日	立石	山西	侯馬	三晋侯馬29	碑陰：宝峰院僧人世系図譜碑記
宣聖五十三代墓石	森田	元統2年8月	立石	山東	曲阜 顔廟	人文169X	本文：五十三世承事郎曲阜尹墓
恩院主塔記	北図	元統2年10月15日	立	山東	歴城	北図49・156	本文：中宮鎮洪福院恩院主塔
広西道平蛮記	首題	元統2年10月	日付	広西	桂林	北図49・157、西南11・7	
王輔嗣墓碑陰記	北図	元統2年11月	誌	河南	偃師	北図49・158	
大元勅賜曲阜孔廟田宅之記	首題	元統2年	日付	山東	曲阜	北図49・159	11月 至日(冬至)
重修□□□□□□英濟王廟三門記	首題	元統2年	不明	寧夏	固原	固原30-1(陽)、-2(陰)	写真不鮮明、碑陰題名
創建妙湛寺碑記※	首題	元統3年正月23日	日付	雲南	昆明	北図49・160	嘉慶丙寅11月再刻

大元勳賜故贈榮祿大夫遼陽等處行中書省平章政事柱國追封蜀國公張氏(応端)先塋碑	首題	元統3年正月	日付	内蒙	赤峰翁牛特旗	北図49・161、東洋2337、羅蔡26(額)	額はバクバ
(重修学宮)銘并序	首題	元統3年2月	立	甘肅	鞏昌	隴西069	現在失落、隴西図拓本、下半のみ、写真小、録文による
□□□常住田土記	首題	元統3年3月16日	日付	山西	洪洞	洪洞57	洪洞は内容から□を長春観とする
故從仕郎錢塘県丞毛公(希聖)曠誌	篆額	元統3年3月□十日	志	浙江	衢州	衢州56	
張唐山(從信)辭職記	首題	元統3年3月	立石	河北	唐山	北図49・163	
大元勳知陝州飛騎尉追封洛陽男楊君(彬)世慶碑銘并序	首題	元統3年3月	建	河南	滎池	翰墨7・03	
重修李長者堂碑	森田	元統3年4月13日	立石	山西	寿陽	寿陽100	碑陰題名
李居徳等題名碑	北図	元統3年4月	立石	山西	永濟	北図49・164	
代祀南鎮記	横題	元統3年5月	文中	浙江	紹興	北図49・165	
嶧山仙人万寿宮元統三年聖旨碑	森田	元統3年7月14日	文書	山東	鄒県	人文172X、蔡11・16	上八下漢、蔡11は北大拓影
重修文殊院記	首題	元統3年7月	日付	山西	孟県	三晋孟県36	
有元故万公(權)墓誌	首題	元統3年9月5日	葬	山東	濰坊	人文171X、北図49・166、故宮墓誌219	文中に「元統三年乙亥初五日甲申」とあり
皇元特授神仙演道大宗師玄門掌教輔道体仁文粹閣玄真人管領諸路道教科知集賢院道教科孫公(徳遠)道行之碑	篆額	元統3年9月	建	陝西	戸県	人文170X、北図49・167、西北08・010、陝西230、碑林194・0854、重陽45、46	
先考新昌史君林公(定老)曠誌	篆額	後至元元年10月	葬	浙江	麗水	麗水100	延祐辛酉進士、拓影では「十月乙亥」に見えるが、この月には乙亥はない。
繼母黄氏(妙真)墓記	篆額	後至元元年12月6日	葬	北京	不明	新出北京75	至元十二年乙亥歲閏十二月六日甲申
興慶重修仏殿并藏經田園記	篆額	元統3年	記	河北	易県	北図49・169(陽)、170(陰)	首題が拓影不十分(大元保定路易州大興慶寺重修仏殿并藏經田園、以下不明)なため、篆額による、日付も読めない。碑陰題名
祀太玄妙心真人記	首題	後至元2年15日	立石	陝西	耀州	陝西231	丙子上元日

洛陽懷古詩刻	北図	後至元2年2月	立石	河南	洛陽	北図49・171	殘石、碑陰題名、器具列記、「暮春十有九日置」とあり
通州甌建更漏記	首題	後至元2年3月19日	文中	北京	通州	図志148(陽)、149(陰)	
福巖院重修法藏記	首題	後至元2年4月15日	立石	山西	晋城市	山西307	
円明広照大師奉公(智拳)提点勤續塔銘	首題	至元2年4月15日	欠	山東	長清 靈巖寺	人文173A(陽、類無)、173B(陰)、174X(陽、類)	AXとともに名前の最後次。碑陰：落髮小師
西湖書院重修大成殿記	東洋	後至元2年5月1日	立石	浙江	杭州	東洋2338	
大都房山県小西天石窟山雲居禪寺藏經記	首題	後至元2年6月1日	建	北京	房山	人文175X(類のみ)、図志127、北京遼金元131、雲居93	
姚載詩刻	森田	後至元2年6月	文中	湖南	祁陽	湖湘2・171	至元丙子夏六月
大元南陽府裕州重建真武觀碑	首題	後至元2年7月31日	立石	河南	方城	翰墨7・04	
重修南閩觀音堂遺蹟感応記	首題	後至元2年8月上旬	日付	山西	晋城	北図49・172	
請亮公住持法王寺疏	北図	後至元2年9月25日	文書	河南	登封	北図49・173	
加封孔子碑記	森田	後至元2年9月丙?子	書	浙江	杭州	東洋2339	この月の□子は壬子と甲子のみ、武林2/10a
修□□橋記	森田	後至元2年12月	文中	湖南	江永	湖湘1・145	至元二年歲在丙子十二月吉日
雲門禪寺疏	翰墨	後至元2年	文書	河南	澠池	翰墨7・05	
重修安寧州文廟記	首題	後至元3年正月15日	日付	雲南	昆明	大理1・68、西南15・37	
治平寺捨田記	北図	後至元3年2月	記	江蘇	江寧	北図49・174	
修渠灌漑規条碑	首題	後至元3年3月11日	工畢	山西	沁水	三晋沁水20	
大元富平県南董村重修羅漢院碑銘	首題	後至元3年3月15日	下欠	陝西	富平	富平17	至元三年丁丑三月壬寅朔中旬有五日丙辰、原本は前至元に誤る
武当山大五竜靈応万寿宮至元三年聖旨碑	森田	後至元3年3月20日	文書	湖北	均州	人文176X	皇帝名は亦隣真班まで
元故房山賈君(和)墓碣銘并序	首題	後至元3年3月	日付	北京	房山	北図49・175	日付部分拓影不完全

昌平縣敕建石橋之記	北京	碑陰 立石	後至元3年3月	篆額	圖志106(陽)、108(陰)、北京遼金元123(陽)、124(陰)	昌平	碑陰題名
暴書堂碑	山東	日付	後至元3年4月1日	碑陽	人文177A(陽)、177B(陰)	鄒県	碑陽は題字のみ
紫柏竜神廟記	山西	立	後至元3年4月	首題	三晋孟県38	孟県	
大元故重中大夫僉海北広東道肅政廉訪司事韓公(允直)墓誌銘	河南	葬	後至元3年5月20日	首題	北図49・176、歴代55、輯繩756、于右仁163	洛陽	輯繩は前至元に誤
猗建東岳廟記	山西	立石	後至元3年5月	首題	洪洞58	洪洞	
(故)大理路差庫大使董縣城福墓誌銘	雲南	立石	至元3年6月12日	首題	大理1・69、西南15・38	大理	日付は録文による
大元故中大夫陝西河東等処都統運塩使知渠堰事張公(庭祐)墓誌銘并序	甘肅	立石	至元3年6月13日	首題	隴西070	鞏昌	蓋共：張公壙誌、拓影不鮮明録文参照
郷國聖公廟興造記	山東	立石	後至元3年6月16日	首題	人文178A-C(陽)、D(陰)	鄒県 孟廟	碑陰：同立石題名記
濟州重修尊經閣記	山東	立石	後至元3年6月	首題	人文179X	濟寧	
至元三年代祀之記	浙江	立石	後至元3年6月	首題	北図49・177	紹興	代祀南鎮、上部碑内に祭文
大元勅賜雍古氏家廟碑	甘肅	建	至元丁丑孟秋初吉	首題	西北民族、蘭州60	礼県	至元丁丑は2回あるが、内容から後至元3年(1337)
新開西湖之記	広西	不明	後至元3年9月	首題	北図49・178、西南111・8	桂林	最後の一字見えず
故晋寧李公(欽嗣)壙誌	江蘇	葬	後至元3年11月24日	森田	人文180A(蓋)、B(本体)、北図49・179(蓋共)、歴代56(蓋共)、故宮臺誌220	江都	首題なし、蓋：故晋寧李公欽嗣之墓、内容的に壙誌とすべきもの
孔子畫像并跋	江蘇	勒	後至元3年11月	北図	北図49・180	江寧	碑陰：金陵雜詠石刻(元祐6年)の再刻、年代不明
張伯顔壙誌		葬	後至元3年12月7日	蓋	碑帖拓本125、太祖は蓋(平江路総管致(仕)・張公壙志)、太宗は本体		現状は澆漫が激しく、第二次文物普查の録文を影印。掲載の普查の録文には「正月□日朔」となっているが、録文には「至元四年正月壬申朔」とあり、正しいが、曆に合わせた可能性もある。
処士胡君伯益(堂)墓誌銘	浙江	葬	後至元4年正月	篆額	麗水164	竜泉	

第三十五代無為谷(法谷)禪師道行之碑	首題	後至元4年3月1日	日付	山東	長清 靈巖寺	人文181A(陽)、181B(陰)、 182X(陽)、北図49・183 (陽)、184(陰)	碑陰題名
河間路転運塩副使郭公墓石	森田	後至元4年3月	日付	河北	河間	河間95	全文：大元河間等路都転運塩使司副使郭 公之先塋
謁司馬温国公墓詩并序	首題	後至元4年4月9日	立石	山西	運城 司馬祠	司馬	
洪洞県上張村重建靈脱殿記	首題	後至元4年3月	日付	山西	洪洞	三晋洪洞79、洪洞59	
通宗英徳大師輔成堂提点揮公(子揮)碑記 并序	首題	後至元4年5月1日	日付	山東	長清 靈巖寺	人文183A(陽・横題なし)、 183B(陰)、184X(陽)、北図 49・185(陽)、186(陰)	184Xは横題：揮公提点塔記あり、碑陰： 落髮小師
大元故承務郎新濟州脱脱禾孫副使許公 (師義)墓誌銘	首題	後至元4年5月3日	葬	河南	焦作	新出河南1・153	蓋共
内郷県創建延寿寺記	首題	後至元4年5月16日	立石	河南	内郷	翰墨7・06	
句容県学恭刻制詞記	首題	後至元4年5月	建	江蘇	句容	北図49・187	
大元勅賜中順大夫諸色人匠都総管府達魯 花赤竹君(温台)之碑	首題	後至元4年5月	建	内蒙	赤峰翁 牛特旗	北図49・189(陽)、190(陰)、 東洋2340	下載欠、碑陰蒙文
第五代住持昱禪師靈塔	題	後至元4年6月1日	日付	北京	密雲	北図49・191、192	八面
創建洙泗書院記	首題	後至元4年8月	文中	山東	曲阜	人文185X	
魯郡公許公夫人高氏墓石	森田	後至元4年8月	立	河南	安陽	翰墨7・07	本文：大元贈中奉大夫湖広行省參知政事 護軍追封魯郡公許公魯郡夫人高氏之墓、 ここから3つはいずれも許有壬が立てた もの
元故大理軍民総管府知事許公(毅)墓石	森田	後至元4年8月	立	河南	安陽	翰墨7・08	本文、末尾を墓石としたのみ
許公(熙載)及夫人宋氏墓石	森田	後至元4年8月	立石	河南	安陽	北図49・193	本文：大元贈嘉議大夫簽書樞密院事上輕 車都尉追封魯郡侯許公魯郡夫人宋氏墓、 熙載については、歐陽玄の神道碑参照
有元贈中奉大夫湖広等処行中書省參知政 事護軍追封魯郡公許公(熙載)神道碑有序	首題	後至元4年8月	建	河南	安陽	北図49・194	

修水簷屋宇敬照	翰墨	後至元4年8月	文書	河南	汝州	翰墨7・09	
梁公他遊魯山劉仙巖詩	森田	後至元4年閏8月17日	文中	廣西	桂林	西南11・9	
創建金砂山宝巖寺記	首題	後至元4年10月15日	日付	雲南	晉寧	大理1・70、西南14・27	
重脩夫子廟碑	首題	後至元4年10月	建	北京	密雲	図志59、北京遼金元84(陽)、85(陰)	碑陰：檀州重修夫子廟碑
顯教円通大師照公(法照)和尚塔銘并叙	首題	後至元5年正月	立石	河南	登封 少林寺	人文187X、翰墨7・10、名碑77付(361p)	
太一元君紫虛元君広惠之碑	首題	後至元5年2月20日	修建	河南	沁陽	翰墨7・11	
代祀北鎮碑	森田	後至元5年2月	建	遼寧	北鎮	東洋2341	碑陰：本路司吏通訳史
故贈昭勇大將軍上樞東都尉雲中郡侯蛮狗万戸兼誌	首題	後至元5年3月13日	書	浙江	衢州	衢州52	
代祀記	篆額	後至元5年3月	建	浙江	紹興	北図49・195	代祀南鎮、元統3年記の碑陰
重脩朱太守(賈臣)廟記	首題	後至元5年5月上澣	記	浙江	紹興	北図48・045、紹興55	仲夏上澣、北図は前、紹興は後とするも、己卯なので後
石鼓文音訓	首題	後至元5年5月甲申	日付	北京	東城 国子監	人文189A、B、190A、B	人文はBを説文系統図とする
何氏買地券	西南	後至元5年8月6日	日付	四川	合川	西南1・93	
大護聖寺住持前大万聖佑国寺宝雲普門宗主広慧妙弁樹宗弘教大師印公(慧印)碑銘	首題	後至元5年8月	立石	山西	五台	人文188X	諱部分文字不完全
何崇礼詩刻	森田	後至元5年11月7日	題	湖南	祁陽	湖湘2・172	
大元勅脩宣聖廟碑	首題	後至元5年11月	建	山東	曲阜	北図49・197	
顯教円通大師照公(法照)和尚塔銘	首題	後至元5年2月	立石	河南	登封 少林寺	人文186B、167X	
辛村重修天齊廟正殿碑記	本書	後至元5年	施	山西	黎城	三晋黎城34	
乳峯和尚之塔	全文	後至元5年	人文	河南	登封 少林寺	人文186A	全文6字

瞻学田記碑	首題	至元6年正月15日	立石	陝西	西安碑林	碑林029・2956	【碑林】は前至元6年とするが、後至元6年の誤り、正月嘉平良日
尙国復聖公五十五代孫顔公墓	人文	後至元6年2月15日	日付	山東	曲阜顔子廟	人文191X	
浦城県達魯花赤李羅等造茶題刻	森田	後至元6年春	文中	福建	武夷	武夷38	至元後庚辰春
張清子題刻	武夷	後至元6年春	文中	福建	武夷	武夷139	至元庚辰春
(上欠)智辯大師勲公(洪勳)之碑	首題	後至元6年4月上旬	日付	河南	舞陽	翰墨7・12	
慶元路儒學新脩廟宇記	首題	後至元6年5月1日	立石	浙江	鄞県	北図49・199	
句容県学大業礼器之碑	首題	後至元6年5月	建	江蘇	句容	北図49・200	碑陰失拓
宣聖五十三代孫奉議大夫襲封衍聖公(孔治)神道碑銘	首題	後至元6年7月	建	山東	曲阜孔廟	人文192X	
元故贈中奉大夫河南江北等處行中書省參知政事護軍追封清河軍公張公(思忠)神道碑銘	首題	後至元6年9月	建	河南	鞏義	名牌69、凸洛295	至元庚申季秋
龔杏林重遊南岳水帘洞題刻	森田	後至元6年9月	文中	湖南	衡山	湖湘1・144	至元後庚申季秋
亡妻葉氏(吳舞妻)壙志	篆額	後至元6年10月19日	耐	浙江	麗水	麗水101	部分拓影
歲數碑銘	首題	後至元6年10月22日	記	北京	西城区正覺寺	北図49・201	庚辰乙亥日、日付の比定は北図
重修公廩碑銘并序	首題	後至元6年10月		山東	滕県	北図48・048	北図は前至元とするが、曹華は後至元
游第一山詩刻	北図	後至元6年11月	文中	江蘇	肝胎	北図49・202	
必申達兒等慶霞洞題名	北図	後至元6年11月	文中	広西	桂林	北図49・203、西南5・68	
大元贈朝列大夫龍興路富州達魯花赤□都尉謝封疆西郡伯忽失歹公神道碑	首題	後至元6年	樹石	山西	夏県	山西310	嘉平良日
大元故進義副尉青潤県主簿雷君(德誼)墓誌銘并叙	首題	至元7年2月13日	葬	陝西	高陵	新出陝西1・175	蓋共
大元秦山靈巖禪寺勅建竜藏之記	首題	至正元年2月15日	記	山東	長清靈巖寺	人文008X、北図50・001	人文前至元に誤る

濰州重建東嶽行祠記	首題	至正元年3月	記	山東	濰坊	北図50・002	碑陰：宗派図
河南府路登封縣高山祖庭大少林禪寺第十五代住持息庵禪師(義諱)行実之碑	首題	至正元年3月	立石	河南	登封 少林寺	人文193X(陽)、名碑77(陰ア リ)、翰墨7・13、菩提45(陽)、 46(陰)	
南宮慶和寺創建正殿記	首題	至正元年4月15日	立石	河北	南宮	北図50・003	この年は、丁丑朔の月が2回あるが、三晋 に従う
宗祖之図	横題	至正元年4月15日	立石	山西	孟県	三晋孟県39	
長明燈記	横題	至正元年5月1日	日付	不明		北図50・004(陽)、005(陰)	
重修華嚴堂經本記	首題	至正改年5月8日	立石	北京	房山	人文194X、北図50・006、図 志130、北京遼金元132、遼仏 225、雲居40	碑の状態が拓本によって違う
重修真武廟施地施米記	人文	至正元年5月	重建	河北	曲州?	人文195X	中山府曲州城
宗聖官設五品級提点所公文碑	本書	至正元年5月	文書	陝西	周至	樓觀39	拓影不鮮明、録文による
壇氏先塋之記	首題	至正元年6月2□日	立石	山東	濟南	北図50・007	上下に分断
悟真登靜靈妙大師奉元路大重陽万寿宮住持提点任通磨臺石	森田	至正元年9月9日	立石	陝西	戸県	戸県55	「通磨」2字は割られているため戸県によ る
南岳石浪亭龔杏林重遊題刻	森田	至正元年秋	文中	湖南	衡山	湖湘1・143	至正元年秋
陽坡村属地碣文	孟県	至正元年10月15日	立	山西	孟県	三晋孟県41	
元故清河郡太夫人花氏墓誌	篆蓋	至正元年10月28日	葬	河北	滿城	滿城155	蓋共、張弘略委
大元故孝友韓君(立)墓誌銘	首題	至正元年11月30日	窆	河南	衛輝	新出河南1・67	蓋共
明德大師輔成堂提点貞吉祥碑記	首題	至正元年11月新復之日	立石	山東	長清 靈巖寺	人文196A(陽)、196B(陰)、 197X(陽)	碑陰：落髮小師題名
靈巖寺代三十九代息庵諱公(義諱)禪師道行之碑	首題	至正元年11月新復之日	立石	山東	長清 靈巖寺	人文198A(陽)、198B(陰)、 199X(陽)、200X(陽)、北図 50・008	碑陰題名
曹元用太白巖題詩	首題	至正2年3月15日	識	山東	濟寧	人文201X	

御香碑記	遼寧	北鎮	北図50・009(陽)、010(陰)、 東洋2342(陽陰)	代祀記、碑陰：与祭官吏題名
元故朝散大夫河間等路都転運塩使司副使 馮公(祐)墓志銘有叙	陝西	西安	人文202X、北図50・011、西 北08・011、歴代57、河間282	諱は示 + 古かも
故高義妻趙氏墓誌銘	山西	寿陽	寿陽102	横題：高氏世系之図
紫栢竜神醮台記	山西	孟県	三晋孟県42	
句容建重建達奚將軍廟碑	江蘇	句容	北図50・012	
重修昭惠靈顯真君廟碑	北京	密雲	図志54(陽)、56(陰)、北京遼 金元103(陽)、104(陰)	碑陰題名？(不完全)、昭は日 + 合に見え る、右肩にバクハ文字
大元鄧州重修宣聖廟碑銘并序	河南	鄧州	翰墨7・14	
詔旨務副趙景思之墓	山西	寿陽	寿陽103	
徐奎暨妻張氏孀誌	浙江	麗水	麗水103	
重修三教廟記	山西	洪洞	三晋洪洞81、洪洞59	
中興路敕建九老嚮都宮記	湖北	江陵	北図50・013	日付部分不鮮明
加号詔碑	甘肅	阜蘭	北図50・015、西北08・012	加封孔子聖旨と記
都壇主嵩雲之塔	河南	登封 少林寺	翰墨7・15	
宣聖五十四代墓碑(孔思古)	不明		人文203X	日付以下読めない
濟州新遷二賢祠記碑	山東	濟寧	人文204X	
建大成至聖文宣王廟学記	河南	羅山	翰墨7・16	首題上部欠
北鎮廟代祀記	遼寧	北鎮	北図50・016(陽)、017(陰)、 東洋2343(陽陰)	碑陰題名、首題の痕跡はあるが不明、篆 額：御香碑記
慶元路総管正議王侯(元恭)去思碑并序	浙江	寧波	天一	
武林瑯嶼記	浙江	杭州	東洋2344	望日

□俊男喜捨觀音題名	森田	至正3年	造	江西	廬山	廬山66	全文：南康□生俊男捨石觀音一至正葵未 造塔自可立
子思書院新廟之記	篆額	至正4年2月1日	記	山東	鄒泉	人文205X	
至正重修宣聖廟記	首題	至正4年閏2月	立石	山東	泰安	人文206X	
至正四年代祀中鎮祭文	森田	至正4年閏2月	文書	山西	洪洞	洪洞60	
志聰買地券	西南	至正4年3月13日	日付	四川	華鎔	西南1-99	
重修南鎮廟碑	篆額	至正4年3月	告成	浙江	紹興	北図50-018	
游仙巖記	首題	至正4年5月13日	日付	広西	桂林	西南11-10	
水神山詩碣	孟県	至正4年9月16日	謁	山西	孟県	三晋孟県43	
湯王廟記	浮山	至正4年9月	立石	山西	浮山	三晋浮山56	上半欠
繹山炬丹峪重修長生觀記	首題	至正4年11月18日	立石	山東	鄒泉	人文207X	
焦思忠真仙岩題名	西南	至正4年11月	文中	広西	融水	西南5-69	冬至前1日
重繪賢像之記	篆額	至正4年11月	立石	山東	濟寧	人文208X、北図50-019	
啓建華亭山大円覚禪寺碑文※	首題	至正4年12月8日	立石	雲南	昆明	北図50-020	道光11年重建
重修大勝寺碑銘并序	首題	至正4年	日付	雲南	昆明	北図50-021(陽)、大理1-71、 72(碑側)	大徳3年碑碑陰
重修神清觀碑記	首題	至正5年3月	日付	河南	沁陽	翰墨7-17	
代祀北鎮記	東洋	至正5年3月	立石	遼寧	北鎮	東洋2345(陽陰)	碑陰：与祭人□厲官、篆額：御香之碑、首 題：代祀□鎮だけ見える
妥妥穆爾允中七星岩題名	西南	至正5年5月14日	日付	広西	桂林	北図50-022、西南5-71	3月か5月か不明、北図による
妥妥穆爾允中風洞山題名	西南	至正5年6月16日	日付	広西	桂林	西南5-70	西南は一月とする
宋思義真仙岩謁廟題名	西南	至正5年11月1日	文中	広西	融水	西南5-72	
重修平江路儒學記	首題	至正5年12月16日	立石	江蘇	呉県	北図50-023	
大元故喜溪儒學教諭錢□(熙祖)廣誌	森田	至正5年12月24日	葬	江蘇	常熟	常熟	首題は錢までしか見えない、内容から廣誌

塔海帖木兒等刻孔子像并記	西南11・11	桂林	廣西	文中	廣西	桂林	西南11・11	日付は、209Aに見える
居庸関六体文字	人文209A-D	昌平	北京	日付	北京	昌平	人文209A-D	
重修藏山神祠記	首題	孟県	山西	立	山西	孟県	三晋孟県44	
黑龍山孚祐祈雨感念碑	題額	輝県	河南	立石	河南	輝県	翰墨7・18	
湖州路重修府治碑	首題	呉興	浙江	日付	浙江	呉興	北図50・024	
御香代祀記	首題	北鎮	遼寧	立石	遼寧	北鎮	北図50・025(陽)、026(陰)、 東洋2346(陽陰)	碑陰：与祭路吏
覺寧他題記石扉	森田	登封 少林寺	河南	日付	河南	登封 少林寺	人文210X	人文の拓本不鮮明のため他の人名読めず
李王獄殺田碑	首題	融水	不明	立石	不明	融水	北図50・027	
李□道題名	西南	濟寧	廣西	文中	廣西	融水	西南5・73	
秦定丁卯瑞麦図	首題	房山	山東	勒	山東	濟寧	人文211X	
大元勅賜上万穀積山靈巖禪寺碑	首題	行唐 封崇寺	北京	立石	北京	房山	図志90、北京遼金元117	
保定路行唐県封崇寺住持円明了性大師伝 戒宗主(祖進)行業碑	首題	鄆県	河北	日付	河北	行唐 封崇寺	北図50・028	拓影不鮮明、石刻名は常山23・10bを参照
天一池記	首題	登封 少林寺	浙江	立石	浙江	鄆県	北図50・029	
嵩山祖庭少林禪寺普宿安公(子安)提点行 実記	首題	北鎮	河南	建	河南	登封 少林寺	翰墨7・19	
御香代祀記	首題	大理	遼寧	立石	遼寧	北鎮	北図50・030(陽)、031(陰)、 東洋(陽陰)2347	碑陰：与祭官吏
墓碑殘闕	大理	大理	雲南	立石	雲南	大理	西南15・39、40、大理1・73、74	いずれも同碑重出
重立石仏碑記	北図	濟寧	山東	立石	山東	濟寧	北図50・032	
代祀塩池碑記	森田	運城	山西	立石	山西	運城	北図50・033	
荆南承天禅院叢蘭精舍碑	首題	江陵	湖北	立	湖北	江陵	人文212X、北図50・034	
元故□斎賈先生(據)墓碣銘	篆額	房山	北京	建	北京	房山	北図50・035	首題不鮮明のため篆額による

荆南承天僧伽妙心塔記	首題	至正7年12月15日	重建	湖北	江陵	北図50・036	
大元重建河南嵩山少林禪寺蕭梁達磨大師碑叙	首題	至正7年	日付	河南	登封 少林寺	北図50・037	
紹興路重建旌忠廟記	首題	至正7年	立石	浙江	紹興	北図50・039、紹興60	
五台山大善法藏寺大元勅賜灌頂國師阿麻刺室利板的達建寺功德之碑	首題	至正7年	立石	山西	五台	人文213X	戊申月甲辰日
都漕運使司同知趙公(温甫)去思碑頌	首題	至正8年正月	欠	北京	通州	図志143(陽)、45(陰)、北京遼金元138(陽)、139(陰)	碑陰題名、日付の下欠
大元易泉龍興等觀宗門下提点縱侯(德寧)功行記	首題	至正8年2月清明	建	河北	易泉	北図50・040(陽)、041(陰)	碑陰題名
皇元放敦武校尉管軍上百戸張君(成)墓碑銘	首題	至正8年3月1日	立石	遼寧	旅順	人文215A(陽)、215B(陰)、216A(陽)、216B(陰)、北図50・163(陽)、50・42(陰)、東洋2348(陽陰)	記事は陽陰続く
御香代祀記	東洋	至正8年3月	立石	遼寧	北鎮	東洋2349(陽陰)	首題：□□代祀記、碑陰題名、題見えず
大元放銀青光祿大夫大司徒汪公(寿昌)神道碑臺誌	首題	至正8年4月27日	日付 下欠	甘肅	淳泉 汪家墳	隴西074(蓋)、075(本文)	写真不鮮明、録文を参照
莫高窟五體真言碑	人文	至正8年5月15日	立石	甘肅	敦煌	人文217X、北図50・043、西北08・013、蘭州70	
句容景儒学重修記	篆額	至正8年5月	立石	江蘇	句容	北図50・044	
代祀之記	首題	至正8年7月	日付	河北	曲陽 北鎮	北図50・045	
明心普照大師萬公(德俊)塔銘	首題	至正8年9月1日	立石	河南	湯陰	翰墨7・20	下部に題名か宗派図、首題は* + 乃
皇元制授諸路道教都提点洞陽顯道忠貞真人井公(徳用)道行之碑	首題	至正8年9月9日	日付	陝西	耀州	陝西232	
寺地回付碑	森田	至正8年10月28日	碑陰 立石	河北	蔚県	蔚県026	冒頭に馬元年(至元19年2月25日)聖旨
大元特賜性覺妙明通辯大師香巖和尚功行碑	首題	至正8年11月20日	立石	河北	易泉	北図50・047	上半拓が薄く読みづらい

揚正祥墓碑	北圀	至正8年12月	立石	雲南	麗江	北圀50・049(陽)、50(陰)	北圀は一日と読むが傷か。
井欄題字	北圀	至正8年	日付	江蘇	江寧県	北圀50・051、52	6面、清の題名有
紹興路総管府推官貢承務(師泰)去思碑銘并序*	首題	至正8年	立石	浙江	紹興	北圀50・053、紹興69	成化6年重立
紹興路総管府推官趙承務(叔遜)去思碑并序*	首題	至正8年	立石	浙江	紹興	北圀50・054、紹興65	成化6年重立
特賜宣授洞輿興福開山祖師講主廻光信公(從信)靈塔	題	至正8年4月19日	立石	北京	順義	新出北京76、圀志173、北京遼金元146	丁巳月乙酉日、日付は新出による、八面
大元保定路易州大重建開元寺三門記	首題	至正9年2月	立石	河北	易県	北圀50・055(陽)、056(陰)	碑陰題名
周從進等遊朝陽巖題記	北圀	至正9年2月	文中	湖南	零陵	北圀50・057	
故父張照磨(義)墓誌	首題	至正9年2月	立石	雲南	大理	大理1・75、西南15・41	春熙良日
張堅固買地券	西南	至正9年3月11日	文中	四川	広安	西南1・96	大元己丑を西南は大徳6年とする、己亥の見間違い？
大元汴梁路鈞州十方長春觀重建玄元殿碑銘并序	首題	至正9年3月13日	日付	河南	禹県	翰墨7・21	
呉思勉等廬山題名	森田	至正9年3月16日	文中	江西	廬山	廬山67	
大元故嘉議大夫平江路総管莫簡墓誌	故宮墓誌	至正9年春	葬	陝西	西安	人文218X、北圀50・058、歴代58、故宮墓誌221、西北08・014、東洋2350	至正戊子七月卒、次年春葬と文中にある
津公禪者之塔	本文	至正9年4月上旬日	立石	山東	長清靈巖寺	人文219A(陽)、B(陰)、220X(陽)	碑陰：落髮小師
洪公提点之塔	本文	至正9年4月上旬日	立石	山東	長清靈巖寺	人文222A(陽)、B(陰)、223X(陽)	碑陰：落髮小師
済澆朝賜記	首題	至正9年4月15日	記	河南	済源	北圀50・060、翰墨7・23	
県尹常公園興水利記	篆額	至正9年4月□日	日付	山西	沁水	三晋沁水22	拓本不完、写真による
(上欠)桂巖長老終身錢記	首題	至正9年4月	北圀	河北	平山	北圀50・059	拓影不鮮明、北圀による
上元県析沢治平寺仏殿碑	首題	至正9年4月	建	江蘇	江寧	北圀50・061	

高山祖庭少林禪寺第十一代住持鳳林珪公禪師行狀之碑	首題	至正9年4月	立石	河南	登封少林寺	翰墨7·22、人文221A(陽)、221B(碑陰)、菩提43(陽)、44(陰)	碑陰：鳳林禪師宗派之図
創塑七子像記	首題	至正9年5月	立石	山東	泰安	人文224X、泰山3·462	
元故懷慶路総管王公(述)墓誌銘	首題	至正9年6月1日	葬	河南	洛陽	輯繩761	
重修廟學之記	篆額	至正9年閏7月	建	北京	順義	図志25(陽)、27(陰)、北京蓮金元105(陽)、106(陰)	碑陽欠落多し、碑陰題名：順州官吏
重修普応康沢王廟廡記	首題	至正9年8月	立石	山西	臨汾	三晋莒都52	
興国寺常住碑記	首題	至正9年8月	立石	甘肅	渭水	隴西77(陽)、78(陰)、	90年代出土、首題興国寺以下読めず、碑陰碑側四至、題名
北海橋題字	紹興	至正9年9月11日	建	浙江	紹興	紹興75	
八兒思不花等題名	森田	至正9年9月	日付	安徽	潜山	天柱80	
范仲淹像贊	北図	至正9年10月	立石	江蘇	呉県	北図50・062	上：贊・宋跋、中：画像、下：元好問記
龔公髡点寿塔	本文	至正9年10月吉日	立石	山東	長清靈巖寺	人文225A(陽)、B(陰)、C(側)、D(側)、226X(陽)、北図50・063(陽)、064(陰)、065(側)、066(側)	碑陰：門人、法繫
大元勅賜先師亮国復聖公新廟碑銘	首題	至正9年11月25日	立	山東	曲阜顔廟	人文227A	
長春真人詩十首	笏山	至正9年	立？	山東	青島	笏山60	写真
濱南華亭山円覚寺元通禪師行実塔銘※	首題	至正10年正月15日	立石	雲南	昆明	北図50・067	道光18年重建
副教敦元氏也仙帖木題名	森田	至正10年春	文中	浙江	杭州	東洋2351	至正庚亥春
有元故奉訓大夫臨洮府達魯花赤汪公(源昌)墓誌銘	首題	至正10年3月	志	甘肅	漳泉汪家墳	隴西088(蓋共)	写真不鮮明、録文を参照
百巖崇明寺碑	首題	至正10年5月21日	立	河南	修武	翰墨7・24	
長洲景重修学官記	首題	至正10年7月1日	立石	江蘇	蘇州	北図50・068	
(故)理陽養長官司案牘段理墓銘並序	首題	至正10年7月3日	卒	雲南	大理	大理1・76、西南15・42	左上、下部など欠

義田記	首題	至正10年7月15日	識	江蘇	吳縣	北図50・069	北図：范仲淹置義田記
文正書院碑	篆額	至正10年7月	立石	江蘇	吳縣	北図50・070	
金□西創建靈濟昭祐聖閼王廟記	首題	至正10年8月16日	立石	河南	孟縣	羅蔡25、翰墨7・25	額にバクハバ
明慧顯性大師崇公寿塔	題	至正10年8月25日	日付	陝西	咸陽	北図50・071、西北08・015	日付の下読めず
敝公會主寿塔	本文	至正10年8月日	建	山東	長清 靈巖寺	人文228A(陽)、B(陰)、C(側)、D(側)、X(陽)	碑陰：落髮小師・俗徒弟題名
重修文山秦廟記	首題	至正10年9月24日	立石	山東	文登	北図50・072	日付有、森田には廿四に見える
金山寺重建道林堂記	首題	至正10年10月15日	立石	江蘇	南京	北図50・073	
□大元国山東東路臨胸建石門寺重修廟宇 □記	首題	至正10年10月27日	欠	山東	臨縣	北図50・074	末尾欠
漢孝子蔡順墓表	首題	至正10年12月7日	立石	陝西	渭南	北図50・075、西北08・016	庚寅冬十二月戊子
大元故贈軍中大夫東平路総管輕車都尉追 封太原郡侯郭公(諡)神道碑銘	首題	至正10年□月12日	立石	山西	汾陽	北図50・076	

## 付記

この目録は、平成24年度の奈良大学研究助成「元朝後期史研究のための石刻資料学の試み」および、平成25年度～27年度科学研究費基盤研究C「元朝石刻拓影の目録化を通じての中国近世石刻史科学構築の試み」の研究代表者としての、さらには平成23年度～25年度科学研究費基盤研究B「河南・山西地の多民族融合社会史の研究－石刻史料による中国地域社会史解明の試み」(研究代表者村岡倫龍谷大学教授)の分担研究者としての、活動成果の一部である。さらには、過去の奈良大学研究助成や科学研究費などの助成金による奈良大学における石刻文献の集積、あるいは現地調査・国内文献調査の成果が基礎となっている。